受付番号　第　　号

２００７年6月１３日

時　　分

山県市議会議長　様

山県市議会議員

寺町知正　　印

一般質問通告書

下記のとおり質問したいので、通告します

質問番号２番　　答弁者　　副市長

質問事項　　土地開発公社の現状や塩漬け土地の有無

《質問要旨》

役所関係の土地について、１０年ほど前から、長年権利関係が動かず(地価は下落しつつ)金利だけかさむ、いわゆる塩漬け土地の問題が全国的に指摘されてきた。

今では、土地開発公社の存在自体を廃止する自治体もある。

市内大桑の椿野には広大な土地がある。旧高富町の「５８６１９㎡」「7億６４７１万２０００円」という債務負担を前提に、公社によって１９９９年(平成１１年)頃に取得された。

１．　公社の取得価格、現在の年間の金利負担額、取得後の金利負担の総額はいくらか。

２．　私は、１９９８年(平成１０年)１２月２２日議会において、その土地取得の議案の時の質疑と反対討論で次の趣旨で述べた。

「平成６年１２月２４日付け高富町と地開発公社と地権者らとの『土地売買に関する覚書』に、『平成１１年3月３１日までにこれを買い受ける』『価格は1㎡当たり１２８００円とし、時価修正を行う』とされている。一般に契約において諸事情の変化がある場合は契約変更も許されている。」

このように、私は当時、契約変更して取得すべきと主張した。

（1）　それにもかかわらず、時価修正しなかったことが大きな負担の一つの要因ではないか。

（2）　契約変更しなかったことをどう評価するのか。今後の教訓のために総括されたい。

３．　今後、この土地はどうするのか。

土地利用見込みはあるのか、ないのか、あるならどのようか。

そのために、財政的な支出が市に伴うのか。

それは、年度毎、どのような使途及び額か。

４．　前項について、市の「財政予測」への影響をどのように位置づけるのか。

５．　他の塩漬け的な長期のメドのつかない土地の有無に関して、あれば筆数、面積、取得額、金利相当額はいくらか。

以上